奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和四年度十月　入賞句一覧　　投句数　五百六　句

奥の細道むすびの地 大垣

特選

不機嫌なあさがほ雨の続きをり　　大垣市　渡部　とし子

今は晴天が続いているけど、八月は雨が多かった。朝の挨拶のように、朝顔を眺めることもぐんと減った。朝露や朝のひかりのなか、はればれと咲く朝顔を見たかったのに。ふりむかれない朝顔だって、やっぱり不機嫌にちがいない。うっとうしい長雨の気分がよくとらえられている。

長き夜や付箋つけ足す終活本　　不破郡垂井町　小坂　久美子

とうとう私も後期高齢者になった。そんな私に終活の文字がまぶしい。部屋にあふれる本や服。それをまずは整理することが終活の一歩であることはわかっているが。最近の終活本は、それだけではないことを教える。見たいテレビもなくなった秋の長い夜。終活本にまた付箋を付け足す。が、なかなか行動に移せない。これは私のこと。

東京へ夜行バス待つ星月夜　　三重県四日市市　藤田　勝民

バスターミナルには様々な人が行きかい、様々な思いも秘めて人は待ち、発つ。東京へ行くのは、仕事を求めてか、休み明けで大学に戻るのか、あるいは恋人、家族に会うためか。待つ人たちをしずかに照らす星月夜。さまざまな物語をつめ、あるいは物語が始まる期待や予感、また哀しみが影となるターミナル。詩情あふれる句。

秀逸

チェロ聴くや猫のあくびの月の夜　　大垣市　香田　末代

落とし水祖父の片足袋残りをり　　東京都狛江市　椎野　一恵

万の向き万の揺れあり秋桜　　養老郡養老町　田中　紫香

一灯の夜間飛行や秋澄みぬ　　大垣市　立川　昌子

薄れゆく郷の縁やうろこ雲　　大垣市　早笘　千恵子

松の声鳥の声みな秋の声　　愛知県名古屋市　舘野　茂子

芭蕉像とんぼの群れにつつまれて　　養老郡養老町　松永　智志

朝寒や水道水の手にやさし　　大垣市　井沢　美志津

虫時雨闇の広さを使い切る　　三重県四日市市　後藤　允孝

松林に聳ゆ灯台いわし雲　　不破郡垂井町　久保田　紘義

度会　さち子　選

入選

一般の部

秋刀魚焼く匂ひさらりと路地を抜け	不破郡垂井町	川瀬　慶泉
台風の過ぎて潮の香残りたる	東京都狛江市	椎野　一恵
ジーンズの尻にスマホや秋暑し	大垣市	新町　恵子
蝉しぐれ羅漢の耳朶の長く垂れ	不破郡垂井町	竹嶋　富美子
蕉翁の句碑立つ湊秋日傘	羽島郡岐南町	伏屋　豊子
かまきりやゆつくり一歩日影入る	大垣市	米山　春江
治水史の残る境内松手入	三重県伊賀市	和田　芙美
夕映えの湖面に比叡と曼珠沙華	京都府宇治市	村松　秀一
新藁の香の広ごりぬかくれんぼ	大垣市	大杉　すみゑ
百日紅燃え地は熱の記憶して	三重県四日市市	井戸　康子
鍋磨き次第に意地になる残暑	三重県四日市市	井立　美智乃
廃線の軌道を染める竹の春	揖斐郡大野町	横山　道男
胡桃割る父の背中や物言わず	神奈川県川崎市	立野　音思
書いて消すときめき少し白露の夜	大垣市	高津　喜久子
木曽三川束ねて秋の虹二重	愛知県豊田市	城山　悠水
秋冷も連れて朝刊インクの香	三重県三重郡	水野　悦子
秋灯のいつ消ゆるとも寮の窓	岐阜市	辻　雅宏
終電の窓の彼方の稲光	神奈川県綾瀬市	田　友作
補聴器を外して一人稲架を組む	大阪府堺市	椋本　望生

選者吟

獅子門の句碑しんがりは秋の蟾蜍　　さち子